

# 「核燃料サイクル」は虚構（フィクション）

## 「核燃料サイクル図」はつながっていない 絵に描いたもち

◎ 核燃料サイクルとは、原発で燃やした燃料を再処理工場に運び、硝酸に溶かしてウランとプルトニウムを取り出し、またこれを材料に原子炉を運転する工程を言う。

1950年代から構想され、日本の原子力政策の根幹に据えられてきた。これは震災後も変わっていない。

ところが核燃料サイクル施設の中で原発以降の施設は一つも完成していない。

再処理工場も東海村のものは実証施設で開発完了により廃止措置中で、その技術を移転したとされる六ヶ所再処理工場は依然として規制委の審査中。高レベル放射性廃棄物ガラス固化体処分場に至っては場所どころか構造も固まっていない。

◎ 世界を見渡してもこれらに類する施設はほとんど廃止か閉鎖、構想中で商業規模で稼働しているものはない。

使用済燃料を全量再処理する「核燃料サイクル計画」を維持している国はない。

東日本大震災により、日本の原子力施設は全て新規制基準適合性審査を経なければ使えないこととされた。

しかし9年経つのにまともに「合格」したものは原発を除きほとんどない。

低レベル放射性廃棄物処分場もウラン濃縮工場も、一部が稼働しているものの新設されるものについての審査は続いており、全体としては終わっていない。また、むつ市関根浜の使用済燃料中間貯蔵施設も審査は終わっていない。

◎ 核燃料サイクル施設がサイクルとして稼働していない現実には、田中俊一元規制委員長や河野太郎防衛大臣も破綻していることを認めており、再処理路線を止めるべきとの考えを表明している。

依然として再処理工場を稼働させプルトニウム利用を進めるべきとするのは、核兵器開発能力を維持したい人々と利権に目がくらんだ人々。

大規模放射性物質拡散事故を引き起こす前に止めさせる責任が、私たちにもある。

たんぼぼ舎

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-6-2ダイナミックビル5F

TEL 03-3238-9035 FAX 03-3238-0797 新HP <http://www.tanpoposya.com/>

